



朝夕ずいぶんと気温が下がるようになりました。体調など崩していませんか？

朝は濃い霧が立ちこめ、下校時は早くに日が暮れます。2学期後半、健康や事故などに気をつけ、充実した「実りの秋」を過ごしましょう。

国際理解特別セッション「ドイツから日本を眺めて」

10月5日（水）放課後、ドイツからの留学生・小林克海セドリックさんのお父さま・小林泰三さんにお越しいただき、「ドイツから日本を眺めて ～今、高校生に期待すること～」というタイトルでお話をいただきました。

三木市出身の小林さんは、若い頃から海外に強い関心を持ち、大学卒業後イギリスの語学学校に通い、その後、ドイツで日本食を扱う仕事をなさっていたそうです。

海外でたくさんの国の人たちと出会い、親しく付き合う中で、「教養」の大切さ、「教養」の有無・深浅によって人としての見られ方が違うというお話が非常に印象的でした。

語学以外の教養を身に付けるためには、楽しみながら（ジャンルを問わず）本を読んだりして、「深掘り」をすること。例えば建築などにしても、ただ眺めるだけではなく、学んでから見るとそれがまったく違って見える。「教養」とは必ずしも学校で教わること（だけ）ではないので、自分から興味を持って学ぶこと。どんなテーマでもディベートができるくらい、日本人としての「深さ」を身に付けないといけない。そのためには、今していることに何ひとつ無駄なことはない。——といったお話をされました。

会場には国際総合科の1・2年生を中心に、普通科の生徒も含め約50名ほどの生徒たちが集まり、熱いお話を熱心に聞き入っていました。ドイツを中心としたヨーロッパ諸国の写真もたくさん見せていただき、貴重な時間となりました。

「国際教育講演会」！

10月26日（水）の5・6時間目、本校体育館にて、「国際教育講演会」が行われました。「北播で一番海外に近い高校」として3年に一度、全校で行ってきたのですが、新型コロナウイルスの影響で今回は4年ぶりの開催となりました。

今回の演題は、「進路の一つとしての海外大学 ～留学の魅力とグローバルリーダー～」。講師の西澤めぐみさんは、16歳で単身渡米して以来、10年以上にわたってアメリカやスペインの数々の大学・大学院で学んでこられた経歴の持ち主。また、その後は、海外進



学コンサルタントとして、30年以上の長きにわたり、数多くの学生たちの留学のサポート、さらには不登校の生徒の支援などをしてこられました。この日は、西澤さんが留学支援をされた若い方々の動画をたくさん見せていただき、また、具体的な海外の大学の情報なども聞かせていただいて、海外留学に強く関心を持った生徒たちも少なくない様子でした。

講演後の質疑に止まらず、放課後も校長室に西澤さんを訪ねて質問をしていた生徒や、また、講演終了後に案内した国内留学の資料を取りに来た生徒も複数名いて、影響の大きい講演だったように思います。classiのアンケートなどより、幾つか感想を抜粋して紹介します。



- 私は将来、学習をすることが困難な国で教師として人のためになりたいと考えていた時期がありましたが、自分の学力や経済力を理由に諦めていました。今回の講演を通して、また、視野を広げてみようかなと思いました。(中略)もう一度、自分の将来について深く考えたいです。
- 私は海外の大学に行こうなんて考えたこともなかったけど、今回の講演を聞いて少し興味がわきました。私は英語がまったくできないし、コミュニケーション能力もないので海外留学は無理だと思いこんでいました。でも逆にそういう人が変わるために行くのが海外なんだと思いました。
- とてもいい講演会でした。留学に対して言語の壁とかがあって、怖いイメージがあったけど、実際留学に来てる人や、行ってる人も頑張ってるので、自分も英語を頑張らなとと思いました。今回の講演を聞いて、留学に対しての印象が少し変わったので良かったと思います。
- 3年生からでも遅くない話ではあると思いましたが、とても魅力的な話だったため、もっと早く聞きたかったと思いました。
- 国際教育に関する制度についてもっと知りたかったです。留学に関する事などの相談先もぜひ知りたかったです。



*** *** *** *** ***

10月で「異文化体験」といえば、月末のハロウィンでしょうか。今年は提携を持った米国シアトルのキャミアック高校が、本場のハロウィンを紹介してくれるそうです。

ところで、ハロウィンはキリスト教の祭りではありません。キリスト教以前の古代アイルランドの住民・ケルト人が起源とされる、一年の終わりに死者の霊を迎える祭りです。現在は主に英語圏で行事として定着していますが、キリスト教徒から見れば異教の祭りなので、アイルランド以外のカトリックの地域・ギリシア正教の地域では関心が薄いそうです。

日本の文化は重層的で多様ですが、欧米の文化もキリスト教以前の要素も含み多様です。その他の地域も同様でしょう。「~世界」とステレオタイプに捉えるだけでなく、各地域の独自性にも目を向けられるようになることが、真の"Be Global"でしょう。

〔国際・探究推進部長 田尻 淳〕

(* 紙幅の都合で、「留学生だより (仮名)」の連載は来月からスタートします。)